

令和 8 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

日 時	令和 8 年 7 月 7 日（火）午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分
場 所	羽島市役所 3 0 1 会議室
出席者	生涯学習都市推進会議委員出席者 1 7 人、欠席者 2 人 松井 聡 委員 市長 大橋 好三 委員 さわやかクラブ羽島代表 小森 博昭 委員 スポーツ推進会議代表 堀 登司仁 委員 社会教育委員代表 丸山 靖生 委員 小中学校長会代表 那須 貴 委員 高等学校代表 岩田 明 委員 自治委員会代表 小林 美雪 委員 学識経験者 近藤かよ子 委員 学識経験者 益川 浩一 委員 学識経験者 國枝 篤志 委員 副市長 森 嘉長 委員 教育長 三輪 弘司 委員 健福祉部長 熊崎 房子 委員 健福祉部子育て・健幸担当部長 小川 剛矢 委員 障がい者支援団体代表 浅野 弓子 委員 公募委員 田谷由紀子 委員 公募委員 事務局 伊藤佳津子 市民協働部長 高田 裕彰 生涯学習課長 冨田 修平 市民協働課長 柴田 泰宏 スポーツ推進課長 番 重宗 図書館長 長江 誠 学校教育課長 浅野 貴久 危機管理課長 安藤 聡美 秘書広報課長 入山 隆史 産業振興部次長兼商工観光課長 牛田紗耶香 生涯学習課課長補佐 杉山 大祐 同課主事
内 容	1 委嘱書交付 2 会長あいさつ 3 意見交換 羽島市生涯学習都市づくり 5 か年計画に基づく令和 8 年度の主な取組について

令和 8 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

意見交換	・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明
資料 2：令和 8 年度 of 取組 目標 1 学びを支える環境整備〈P. 2～3〉 (目標指標 含む)	
委員	施設の利用にかかる費用について、先日竹鼻中学校吹奏楽部の定期演奏会が開催されたが、会場使用料は減免になったものの、備品等にかかる費用は減免とならなかった。保護者の負担も大きくなっているので、市内の中学生が使用する場合などは減免対象となるようお願いしたい。 また、今年は愛知県でアジアパラ大会が開催されるにあたり、7 月と 8 月の研修を経て防災センターでボッチャを行う予定であり、ぜひ参加してほしい。
事務局	市が管理する公共施設の使用料等に関しては、負担の公平性の観点から、広く税金で負担する公費部分と、施設利用者が負担する受益者負担の考え方を明確にして、令和 3 年 4 月から使用料の減免の見直しを行って、受益者の負担の適正化を実施してきたところである。その中で、例えば文化センターの場合は、学校が主催する行事等で児童生徒などの利用について、考慮すべきものについては考慮し適切な使用料を設定している点についてご理解いただきたい。また、規定では備品の使用について減免の対象外となっており、併せてご理解いただきたい。
会長	義務教育の一環としての成果発表という形であると、一般の利用者とは減免対象の取り扱いが少し違うと思われるため、担当課は地域振興公社と検討を願う。
委員	吹奏楽での施設利用についても、機材の使用料が高く、予算の都合上ピアノの使用を諦めることがあった。生徒も演奏を頑張っており、より良い演奏を届け来場者に楽しんでもらうためにも、配慮やサポートがあるとありがたい。
会長	老朽化した貸館施設の整備をしっかりと進めてほしいという意見を他会議でいただいているところであるが、目標指標「施設環境に満足している利用者の割合」は 85.1%と高くなっている。地域の方の要望もあり、福寿町平方に地域コミュニティセンターが新たに建設され、キャパシティのある充実した施設となる予定である。一方で、冷房設備については、5 年程度かけての体育館の整備ということで既に実施設計等の段階に入っているが、児童生徒数の減少に伴う諸課題を解決しながら検討を進めている状況であることをご理解願いたい。

令和 8 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

委員	子ども会や老人クラブ等の関係でコミュニティセンターや足近小学校を利用しているが、学校も様々な箇所で老朽化が進んでいるため、教頭先生に確認のうえ市へ連絡し、直してもらっている状況である。
委員	竹鼻南コミュニティセンターを利用しているが、指導員は非常に丁寧な対応であり、以前と比べれば冷房設備も整ってきたので、利用者のアンケートでは高い満足度が出ていると思う。ただ、お手洗いについてはまだ和式のものがあるので、対応が可能であれば洋式化を進めてほしいと感じる。また、まもなく夏休みに入るので、親子で施設を使っただけのようにイベントの情報を発信できると良いと思う。
会長	空調関係も含めて、さまざまなご要望の中で優先度の高いものを進めていきたい。 目標指標「生涯学習施設の利用回数」について、目標値は施設を利用可能なギリギリの数値で設定しているのか。
事務局	これまでの利用回数の増減等から目標値を設定しており、利用回数が目標値で頭打ちとなるものではない。
資料 2：令和 8 年度取組 目標 2 多様な学習機会の提供〈P. 4～5〉 (目標指標 含む)	
会長	ボードゲームについて、補足説明を願う。
事務局	ボードゲームは毎月第 1 と第 3 日曜日の午後 1 時 30 分から午後 4 時まで開催している。最近はインターネット等での交流は多いものの、対面で交流する機会が少ないため、利用者同士の交流を深め、コミュニケーション能力を育成する目的で開催している。令和 7 年度は 27 回開催し、619 人の参加があった。
会長	子育ての関係で、パパママ教室と幼児食、離乳食教室について説明願う。
委員	パパママ教室は、赤ちゃんの沐浴の仕方やおむつの替え方の体験などを通して出生に備えていただくという、これから父母になる方に向けての講座である。平日 2 回と日曜日にも 2 回、年間で計 4 回開催している。ママだけでなくパパにも参加してもらえよう工夫しており、実際パパの参加率が高くなっている。 乳幼児の教室については、離乳食教室に加えて今年度から新たに 1 歳 2 カ月前後のお子さんを対象とした幼児食教室を開催している。食事に関するアドバイスのほか、実際にコップを使って飲むことや、試食をかじり取る体験をお子さんにしていただきながら、保護者に、口の周りの筋肉を上手に使えるようになることの大切さをお伝えしている。併せて、食後の歯磨き指導も行っている。

令和 8 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

会長	認知症サポーター養成講座について説明願う。
委員	認知症サポーター養成講座については、社会福祉協議会に委託して、1 回あたり 20 名程度で年 4 回ほど行っている。内容については難しいものではなく、認知症を患った方に対する理解を深め、地域で認知症の方がいたら温かく見守っていただくというものである。特定の方を対象とした講座ではなく、広く市民を対象としている。
会長	5 ページに記載がある環境学習講座について、木曽川流域には天然記念物イタセンパラが生息している。これまで全国で 3 か所生息が認められてきたが、近年の気象状況等により絶滅の危機にある。イタセンパラ保護のため、若い世代への学習機会の提供に努めていきたい。 また、歴史民俗資料館では、既に定員に達しているものの、映画の上映及び監督の講演会を予定しており、併せて魅力的な展示も行われている。さらに、竹鼻町屋ギャラリーでは各自治体にある美術館と連携しながら展覧会を開催予定である。皆さんにもぜひご覧いただきたい。
委員	先日福寿小学校で開催された環境学習講座の記事が新聞に載っており、令和 7 年度の実組で福寿小学校と桑原学園が講座を希望したとあったが、希望はこの 2 校だけであったのか、他に希望があったのか。
事務局	令和 7 年度の希望は 2 校のみであった。
委員	学校にはそれぞれ独自の大切な活動があると思うので全校は難しいが、木曽川流域に生息しているのであれば、もっとアピールして環境学習講座の機会が増えたら良い。
会長	定例市議会で、イタセンパラを市の魚としてはどうかという意見があった。イタセンパラの学習について環境省や国土交通省と連携しているが、密漁防止等により生息地を公表しないことが通例となっている。現在小学校や図書館での展示等を行っており、市としても委員が仰る方向性で進めてまいりたい。
委員	どこまで実際に行うことができるかという話になる。子どもにとって一番大切なことは体験であるため、本来は全ての学校に水槽があってイタセンパラを守り育てていくということになるが、正規の教育課程に組み込むのか、特色ある教育活動の一つとするのか。イタセンパラは生息期間が非常に短い魚であるため、特殊な設備を設けるということではなく、学習教育の一環として国とも連携しながら、市としても行ってまいりたい。
委員	岐阜県立羽島高等学校では、市内の老舗和菓子店とコラボしたお菓子をいっしょに作ったり、包装紙をデザインしたりしている。また、FC 岐阜のホームタウンデーで、イタセンパラ関連のコラボ商品を販売するなど、保全活動を行っている。

令和8年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

会長	総合防災訓練について、活動が非常に先進的になり、住民の方が主導しメニューが構築されているが、最近参加者が減っていると感じる。
事務局	以前は炊き出し訓練やトイレの組み立て搬送訓練など多彩なメニューで体験をしていただく形であったが、新型コロナウイルスの流行を機に、あまり接触ができないということで限られた人数の中で行う形へ移行してきた経緯がある。もう一つは、地域での防災活動が活発になってきており、市が育成をさせていただいている羽島市防災コーディネーター主催の防災教育が活発に行われ始めている。毎年防災教育を活発に行っている地域では、半日がかりな市の訓練は敬遠され、参加者を集めることが難しいという声も上がっている。今は地域のリーダーの方を対象に総合防災訓練を実施し、なるべく地域のコミュニティに合った訓練をしていただく方針へシフトしている。現状に合わせて行っているというのが実態である。
会長	竹鼻南地区と小熊新生地区、正木須賀地区については、防災組織が管理をしているが、できれば住民主体の中で、行政も一体になった形での防災訓練を展開していることをご承知おきいただきたい。
委員	芸術・文化に触れる機会の提供として、文化協会でも様々な活動を行っているが、活動費用の確保が課題となっている。
委員	文化活動としては、個々で行事を開催すると参加者を集めることが難しかったり、開催者側の負担が大きくなったりすることがあるため、今年度より総合文化祭という形をとっている。文化協会として、面談や金銭面でサポートをし、それぞれの部団体の運営活動をもっと底上げしていくという方針を立てている。
資料2：令和8年度取組 目標3 幅広い世代へ向けた情報発信〈P. 6～7〉（目標指標 含む）	
委員	学校で勤務している立場から見て、子どもたちが学ぶ場として生涯学習に関わる情報が非常に多く入ってくるが、それを参加につなげることの難しさを感じる。学ぶ場は多く提供されているし、情報としても届いているのだが、これを学校の教育課程に位置づけ教育活動の中で実施しようとする、壁があるように思う。ただ、素晴らしい伝統文化に触れる機会や社会生活のモラルを学ぶ機会等が多くある中で、子どもたちがそこに参加したいと思えるように、関心を高めるようにすることが学校教育の一つの課題と感じているため、学校の職員もこのことを理解して指導していく必要がある。
委員	同じ情報でも、子どもが学校から通知文書をもって来たり、すぐ～るや市LINEで配信されたりと、何回も目にすることがある。情報量としては多いと思いつつも、様々な場面で目に触れることは記憶に残り

令和 8 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	やすく良い面があると感じている。また、学校の先生が「このイベントは面白そうだね」と言ってチラシ等を配布すると、子どもはやる気になって家に持ち帰ってくる。子どもにとって身近で信頼できる大人の意見は大きな影響を与えるので、関心を高めるために良いと思う。
委員	SNSやY o u T u b eで情報配信がされているが、実際にそれを見て参加した人はどれくらいいるのか。また、高齢の方はそういったものをなかなか見ないと思うので、広報紙など世代に合わせた情報発信をお願いしたい。
事務局	令和 7 年度に行われた第 1 回はしま学事始という講座のアンケートで、どのように講座を知ったかという設問に対しては、参加者 40 名のうち 26 名がチラシの回覧、8 名が施設備え付けのチラシ、2 名が市ホームページなどとなっている。これからも各講座でアンケートを取り、参加者がどのように知ったかを把握して、対応していきたい。
会長	市ホームページの閲覧数はどれくらいか。
事務局	市ホームページへのアクセス数について、令和 5 年度が 35 万回、令和 6 年度が 53 万回、令和 7 年度が 47 万回となっている。
資料 2：令和 8 年度 of 取組 目標 4 生涯学習団体の支援や資源の保護 〈P. 8～9〉（目標指標 含む）	
特に意見等なし	
資料 2：令和 8 年度 of 取組 目標 5 連携・協働による学びや活動機会の充実 〈P. 10～11〉（目標指標 含む）	
会長	自治委員会や子ども会、老人クラブなどベーシックな形の地域コミュニティにこそこれからの生涯学習の歩みがあるのではないかと考える。このようなコミュニティととも連携を取ることが重要である。
委員	目標に掲げているとおり、活動主体との連携協働による学びや活動機会の創出は非常に重要な点だと思う。その一番の基盤になるのがエリア型の地域コミュニティである。ただ、自治会等の加入率が下がっている中で、地域コミュニティに学びや協働がいかに入っているのかという課題がある。エリア型コミュニティがこれから大事にしていくべきことは 3 点あると私は捉えている。1 点目は人々の命を守ることであり、防災や防犯というところをどう構築し地域が支えていくか。2 点目は人々の生活を守ることであり、高齢者の見守りや子どもたちの子育て支援などは非常に重要である。3 点目は次世代を担う子どもや若者を守り育てることである。人々の命や生活、子ども若者の育成を重点的に置きながら、この 5 か年計画を良い形で推進できれば良いと考える。

令和 8 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

会長	5 か年計画の推進について、このような形で令和 8 年度の個々の取組とマクロな関係も今後考慮するということで、事務局には考察をお願いする。
委員	老人クラブも年々200 人から 300 人が減っている状況で、危機感を持っている。退会した方などに聞いてみると、最近の高齢者の傾向としては、「束縛のない人生を送りたい」「これまで我慢してきた人間関係を清算したい」「これからは自分のために自分のペースで参加できる生涯学習に参加したい」という声が多かった。高齢者のためにも、興味関心を高めるような講座を開催していただけるとありがたい。高齢者に参加してみたい講座を聞いてみると、健康維持や資産管理は安定して人気があるものの、人間関係をより良くするコツや成年後見制度、語学を学びたいという声も多かった。 また、一部地域ではコミュニティセンターにて「集いの場」を設けており、好きな時間にのんびりとお喋りをしたり学んだり体験もできるため、高齢者には大変好評である。
会長	自治会加入率が低迷する中で、人間関係を構築するイベントの開催などご意見をいただいた。そのようなアプローチの仕方を今後、老人クラブの方々と担当部局の方で検討していきたい。
委員	基本理念にあるウェルビーイングの実現というのは、それぞれの人が満足できる人生を送ることであり、それは人が社会から必要とされることだと考える。私は子どもたちへ講演する機会があるが、皆必要とされて生まれてきたこと、自分が必要とされる何かを見つけること、それによって生きがい生まれることを伝えている。活動する機会と活動する支援を掲げる目標 5 と目標 6 は非常に大切なことである。いろいろな学びにより、自分が必要だと感じ人生の満足度が上がる。それが最終的な生涯学習計画の答えではないかと切に感じた。
会長	自分の役割を自覚することが生きがいにも繋がるということで、今後参考とさせていただく。
資料 2：令和 8 年度の取組 目標 6 地域人材の活躍支援〈P. 12～13〉 （目標指標 含む）	
委員	地域への還元や人材の活躍は非常に大切である。学校の教育課程に地域人材の活躍の場を取り入れることは難しいという話があったが、地域で活躍する人材の育成を羽島市は積極的に進めている。こういったところで養成された人材をぜひ子どもたちの学びや育ちに積極的に生かしてほしいし、学校現場としても考えてほしい。そのことが先ほど申し上げた、若者を守り育成することが地域の役割ということに繋がってくる。教育課程には入れにくいということは重々承知をしているが、ぜひ

令和8年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	こういった人材を学校教育、さらに広く言えば子どもたちの育ち学びに生かしてほしい。
委員	食生活改善連絡協議会にも関わっているが、今の親は非常に忙しく、子どもの食生活について深く考えることが難しいと思う。平日の栄養教室等への参加がしにくい面はあると思うが、私の活動として小さい子どもへ食生活の大切さなどを伝えていくことが役割ではないかと再確認できた。この夏休み期間にも、親子で体験できる講座が多く実施されるので、団体等に声かけをして地域の方にも参加していただけるようにしていきたいと思っている。
会長	委員の皆様からご意見をいただき、きっかけ作り、アプローチの仕方が行政としても大切ということで、既存の組織のみではなく、何か新しい考え方や呼びかけの方法も考えながら、多世代にわたる生涯学習を推進してまいりたい。
	閉会